

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.106
2008/12

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えます。



1 page [特集] 吉野川アラカルト

四国三郎の郷 吉野川について学ぼう!!
『なったらいいな。未来の吉野川』
四国三郎の郷宣言

3 page 過去から未来へ 道の駅貞光ゆうゆう館 館長 西岡 勝幸さん

4 page ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す! 上板町神宅小学校の巻 おもちゃを作って遊ぼう!

5 page ふる〜ぶめいと通信 貞光ゆうゆうパークボランティアグループ結成 吉野川によって出来た鴨島町

6 page 源流域からの便り 第6便

ふる〜ぶ INFORMATION
第1回 吉野川現地(フィールド)講座
「干潟観察会」

7 page よりよい吉野川づくり<第43回> 課題の解決に向け、様々な取り組みを行っています。

ふる〜ぶひ・ろ・ば
編集後記・プレゼント



ヒドリガモ【モモ目カモ科】

ヒドリガモは、吉野川河口などに多く見られる冬鳥で、
メスとオスでは、姿や鳴き声も違います。
オスの体は灰色っぽく、
メスの体は茶色っぽいです。

特集 吉野川アラカルト

四国三郎の郷 吉野川について学ぼう!!

『なったらいいな。未来の吉野川』
四国三郎の郷 宣言

吉野川中下流の子どもたちが一同に集い、流域の各NPOのご協力をいただき、班ごとに分かれて四国大学の学生とともに、さまざまな体験プログラムを通じて、吉野川についての知識を深め、最後には未来の吉野川像について、発表をするという『なったらいいな。未来の吉野川』が、10月4日(土)に美馬市の四国三郎の郷で開催されました。

長い間ふる〜ぶ編集部であたためていた企画。多くの皆さんの力の結集で無事成功を収めました。

協力 ●NPO法人 美馬体験交流の会 ●サアーやらんで大楠21 ●吉野川流域交流塾
●AMEMBO ●四国大学生生活科学部児童学科3、4年生田村ゼミのみなさん
●重清西小学校 ●ときめきダンスカンパニー四国 ●加茂サッカースポーツ少年団 (順不同)

竹細工教室と竹を使ってお菓子づくり

吉野川の治水や水質について徳島河川国道事務所より説明が行われた後、屋外へ。

四国三郎の郷には広範の竹林があり、今回は、その竹を使ってお箸づくりと昼食で使用する食器づくりを行いました。

吉野川流域交流塾塾長の太谷國廣さん、サアーやらんで大楠21会長の川原勝市さん、NPO法人美馬体験交流の会理事長の田中義美さんから、現在の活動や、吉野川についての思いなどを話していただいたあと、竹細工教室がスタート。始めは、おそろおそろナイフを持っていた子どもたちも、ナイフの持ち方など美馬体験交流の会のみなさんに指導していただき、徐々に持てるようになりました。

竹細工教室が進められる中、サアーやらんで大楠21の皆さんを中心に、竹を使ってのバームクーヘンと、バナナケーキ作りの下ごしらえが連携プレーで行われ、バームクーヘン作りも体験できました。竹に生地をかけてくるくる回すという作業を繰り返すと、バームクーヘンができあがります。

その後は、AMEMBOによるカヌー

体験です。お天気にも恵まれ、キラキラと吉野川の水面が輝く中での活動となり、吉野川には子どもたちの元気いっぱいの声がこだましていました。



どんなバームクーヘン
ができるかな



完成したバームクーヘン



流しそうめん体験も行いました。
おいしいな



みんなが熱心に徳島河川国道事務所からの説明を聞きました



ときめきダンスカンパニー四国による防災ダンス-洪水編-いざというときにどんな行動をとればいいのか、防災知識を楽しく身につけることができる。みんなで一緒に踊りました

まとめと発表

すべての体験プログラムが終了した後は、それぞれの班で発表用のとりまとめです。まずは、今日撮った写真を選んだりしながら、思い思いに今日1日のことを振り返っていました。

リードするのは、大学生たち。「竹細工どうだった?」「今日カヌーした時、竹林がいっぱいあったなあ」「竹は自然と生えているわけではないんよな」「昔吉野川に水がいっぱい出て、洪水になった。堤防がなかった時、それを

防ぐために、竹を植えたんよ」「竹林も生えっぱなしじゃなく、間を切ってあげて、太陽の光を入れてあげたら、心がほっとする場所になるな」「切った竹をどうしたらいいと思う?」「ゴミの無いきれいな川になるにはどうしたらいいと思う?」など、さまざまな方向から、子どもたちにアプローチ。4班の発表がまとまりました。



発表のとりまとめ

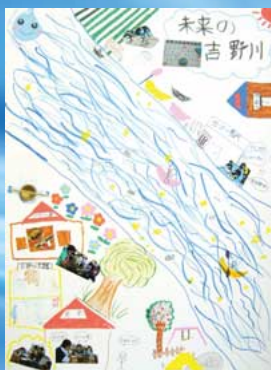


班でまとめた意見を発表

吉野川流域交流塾班が描く
未来の吉野川は、

**家族みんなで吉野川にきて、
遊べる川。**

水辺にはカヌーの駅、誰でも手軽にバームクーヘンが食べられるバームクーヘンやさん、おみやげやさんがあります。いつもきらきらと光っていて、にぎやかな川になればいいと思います。



AMEMBO班が描く
未来の吉野川は、

**未来の吉野川は、ゴミゼロ
にしよう。**

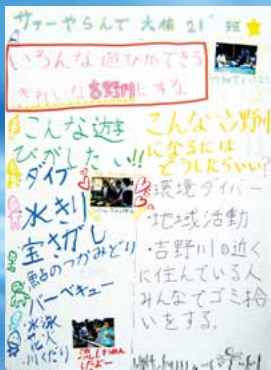
買い物は、マイバックにしたり、車の排気ガスをなくすことなどが必要。吉野川には、竹材で作ったいかだの家があります。未来に向かって川がきれいであり続けるために、川をきれいにし続けよう。



サーヤらんで大楠21班が描く
未来の吉野川は、

**いろんな遊びができる
きれいな吉野川にする。**

環境ダイバーの制度を作ります。環境ダイバーは、吉野川の環境を整えていく制度で、川に潜ってゴミを拾ったり、魚の住める草を植えたりする人。もちろん、吉野川でみんなで、ゴミ拾いをするのも大切。ひとり、ひとりも大切だけど、みんなですることはもっと大切。きれいな吉野川を未来につなげていこう。



吉野川をきれいにしよう



美馬体験交流の会班が描く
未来の吉野川は、

川をきれいにしよう。

川を汚すと、地球環境にまで影響を及ぼします。川をきれいにしましょう。洗剤も川に影響を及ぼすので、川にやさしい洗剤を使いましょう。いろんな遊びができるゴミのない透き通った川にしよう。

朝9時から、18時までともに過ごした大学生と小学生は、本当の姉妹、姉弟、兄弟のよう。今日1日の成果を生かしたすばらしい発表でした。その言葉の端々に、ダイヤモンドのように、きらりと光るまぶしいものがあり、思わずドキッとさせられました。それは、吉野川の未来を担う大学生と小学生たちがたくましく見えた瞬間でした。

その後、各発表の共通項をまとめ、四国三郎の郷宣言として、全員で読み上げました。

徳島河川国道事務所の松下越夫地域連携課長より、「どの発表も今日の学んだことを活かし、吉野川にうもれている問題を提起し、解決していく段

階を踏んだ発表でした。これから一人一人ががんばっていい吉野川にしていきたい!」と、講評をいただきました。

閉会式では、四国大学の中平亘さんが、代表して、「今日1日、学んだことをまわりの友人や次の世代に伝えていきたい」とNPOの皆さんにお礼の言葉を述べました。

ご協力いただいたみなさん、参加いただいた子どもたち、本当にありがとうございました。編集部、スタッフ一同皆さんと時間を共有で

きたことを幸せに思います。皆さんがいれば、未来の吉野川は、明るいぞ! また、いつかお会いしましょう!



四国三郎の郷宣言が完成しみんなで記念撮影

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



美しい吉野川が目の前 地域交流拠点 貞光ゆうゆう館

道の駅「貞光ゆうゆう館」館長

西岡 勝幸さん

「ゆうゆうパークはね。夕陽がとてもきれいなんです。夕方、吉野川に夕陽の道ができる。なんともいえない美しさですよ」と語るのは、道の駅「貞光ゆうゆう館」館長西岡勝幸さん。貞光ゆうゆう館では、ふる～ぶを配布していただいたり、さまざまな情報提供をいただくなど、いつも大変お世話になっています。50号記念号では、お祝いのメッセージをいただきました。



多くの人が訪れる貞光ゆうゆう館

この貞光ゆうゆう館は、剣山登山への中継地にもなっており、四季を通じて多くの人でにぎわっています。地産地消を大切に地元の安全な食材を多くの人に味わってもらいたいとの西岡さんやスタッフの思いから、直売所では、地元のおじいちゃん、おばあちゃんが作った野菜やおまんじゅう、貞光ゆうゆう館で作っている地元の大豆を使った豆腐や、地元の果物を使ったジェラートなども人気となっています。日曜日のレストランには、お煮しめやばうぜ寿司、バラ寿司、うどんなどふるさとの味も登場し、好評を博しています。

貞光ゆうゆう館では、道の駅施設と貞光ゆうゆうパーク(桜堤、パークゴルフ場、サッカー場、テニス場など)を管理しています。この施設の管理には、多くの住民の方の協力がかかせません。草刈りや河川の清掃、また花壇への四季おりおりの花の植栽などに、常に多くの住民の方が汗を流しています。常に

一緒に活動している西岡さんも「本当に人のつながりというものを感

じています」と、感謝の気持ちでいっぱいようです。誰もが美しい吉野川、美しいゆうゆうパークになってほしい。みんなの思いや目的は一つ。そんな思いが実り、いつもパークには、散歩する人、パークゴルフをする人、ジョギングする人、また、クラブ活動をする学生など、多くの

人でいっぱいです。今年10月には、貞光工業高校OBらが清掃などを行うボランティアクラブを結成するなど、ますますその気運は高まっています。旅の途中、仕事の途中に立ち寄り方だけではなく、多くの地元の方が集まる「道の駅」貞光ゆうゆう館。これらの活動が認められ、「道の駅 グランプリ2000」で心ふれあい賞を受賞しました。これからも多くの人が集う、いき



貞光ゆうゆうパークでのつるぎ町運動会のようす

いきとした道の駅をめざして、西岡館長とスタッフ、地域住民の皆さんの取り組みは続いています。

目の前が美しい吉野川。小さい時から、川で魚を捕って遊んでいたという西岡さん。川があって、山があって、花がある。美しい貞光ゆうゆうパークが大好きだそうです。今後の夢や構想は?と、お伺いすると、「今は、全然川で泳げなくなったでしょ。川はルールを守れば安全な場所なんです。水泳まではいなくても、浅瀬で子どもたちが水に触れて、遊べる場所ができないか、各機関に働きかけてみようと思っていますところなんです」と西岡さん。

「水辺の竹林も伐採して光を入れたいですね」思いはますます広がっていくようです。



堤防を散歩するのも気持ちいい

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



阿讃山脈のふもとに広がる上板町。山麓一帯は、早くから柿の栽培がさかんで、近年は桃も多く栽培されています。

神宅小学校では、その土地柄を生かして、柿や桃の栽培などに取り組む農家を訪ねるなど、地域の産業について学びを深めています。また、今夏は、エコプロジェクトの一貫として、ゴーヤの栽培に挑戦し、真夏の日差しをさえぎる緑のカーテン作りにも取り組みました。

このように、さまざまな取り組みが行われている神宅小学校。この学校で8年前から行われているのが、上板ライオンズクラブの皆さんによる『おもちゃを作って遊ぼう!』です。これは、上板ライオンズクラブの皆さんが学校を訪問し、児童と一緒におもちゃを作って遊ぶというもので、全学年で行われています。教えて下さるおもちゃは、竹トンボ、竹馬、水鉄砲、紙玉鉄砲、紙飛行機、洋風、糸ブンブンなど多くの種類があり学年によって違います。

取材日には、2年生が3枚の色紙を組み合わせてコマを作っていました。子どもたちが全部作るのは難しいので、



子どもたちが作った
きれいなコマ



全員集合



コマをまわす子どもたちを優しい笑顔で見つめるライオンズクラブのみなさん



こんなにきれいにまわります

3枚のうち一部を作りました。最初子どもたちは、「えーできん」「どうやってするん?」と悪戦苦闘していましたが、ライオンズクラブの

みなさんに教わって美しいコマが完成しました。色あわせにも子どもたちの個性がでていて、子どもたちが一斉に回すと、あちこちで美しい輪舞ができました。「ほんと、色の選び方きれいよ〜」とライオンズクラブのみなさんも感心しきり。2年生ながら配色の技が効いたコマが完成しました。

その後、お菓子の箱などを2センチ四方に切り、ようじをさしたコマと紙鉄砲を作り、みんなで楽しい時間を過ごしました。

「私たちが、子どもの頃は、お金を出しておもちゃを買うことはなかった。手作りの良さを子どもたちに体験させてあげたい」「一緒にすることによって、人と人とのつながりを深めていけたらいい」「今回は、低学年のため刃物は使わなかったが、い

い加減な気持ちで刃物を持つと、自分もけがをするし、友だちにけがをさせてしまうことがある。命の大切さを教えてあげたい」と、ライオンズクラブの皆さんの思いは、さまざまです。これは、校長先生、教頭先生はじめ、先生方すべての思いでもあります。

2年生の子どもたちは、とても元気いっぱいです。ライオンズクラブの皆さんや先生方の思いを受け、のびのびと健やかに成長していったほしいと願いつつ、学校をあとにしました。



コマの作り方を教えてもらう



「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

貞光ゆらゆらパークボランティアグループ結成

つるぎ町
大塩 邦光さん

貞光ゆうゆうパークは、多くの人が朝夕ウォーキングを楽しんでいます。昼間は小学生のサッカーや、中学生・高校生の陸上部、サッカー部の練習場としてにぎわいます。また、体育の日には、町民運動会もあります。

私も早朝、パークを散歩しますが、10月3日に貞光工業高校OBが発起人となって、結成されたボランティアグループ会員や、貞光工高生、美馬商生ら約200名が清掃したので、本当に美しくなりました。

ウォーキングを楽しんでいる人たちも気持ちがいよと話をしています。



めいと
レポート

吉野川によって出来た鴨島町

吉野川市 今中 忠重さん

大河吉野川は、かつては北の阿讃山脈と南の四国山地の間で大水のたびに流路が変わりました。中流の吉野川市山川町付近から下流はこの南北の山地の間が吉野川だったと言えます。

ですからこの地の大昔の生活の場は、南の山地斜面の高台で鴨島町には壇、岡原、高の原といった地名があっ

ます。その後、永年にわたり吉野川の上流や山地の谷川により運ばれた土砂が積もって中洲や扇状地の平地が広がり、そこで農耕が行われ、集落が出来、町へと発展していきました。

鴨島町の字名や小字名には栗島、上下島、中島、牛島、敷地(川が運んだ土砂で出来た地)、飯尾(井野の意で、水路の完備された野)、須賀(川水により出来た砂地)、福井(肥えた土地)、内原、小原、殿原、飯原など川により出来た土地を表す名がたくさん見られ、吉野川が作った町であることを後世に伝えています。



中洲の集落



※参考文献 新吉野川市地名考(植村芳雄 著)



源流域からの便り

第 6 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

本山町の北西部に、白髪山周辺を主体とした蛇紋岩体の山系を源とする、県内でも屈指の清流「汗見川」が流れています。深い渓谷を刻みながら流れる汗見川は青々として非常に透明度が高く、春の岸ツツジや夏の川遊び、秋の紅葉には多くの方が訪れ、美しい川の流るに日々の疲れを癒しています。また、汗見川の水は上流の瓜生野取水堰より早明浦ダムへも給水しており、水質の浄化に貢献しています。

汗見川流域6地区の人口は約250人で高齢者比率は約56%と町内でも特に少子高齢化の進んでいる地域ですが、住民はお互いに助け合いながら元気に暮らしています。この地域には小学校が1校ありましたが、子どもの減少により平成16年度から休校となっていました。しかし流域住民でなんとかこの小学校を活用しようという検討を重ねた結果、



汗見川ふれあいの郷 清流館



汗見川

宿泊客にも地元山菜料理と木造の温かみあふれる校舍を充分にアピールすることができ、1年目としてはまずまずの滑り出しと思います。四季おりおりの美しい姿を見せる四国の中心、吉野川

地元住民で管理運営を行う宿泊施設「汗見川ふれあいの郷 清流館」として本年5月にオープンしました。これまで汗見川地区では様々な交流事業の受入れを行っていましたが、宿泊施設の運営は初めてのことであり、試行錯誤の連続ながら頑張った甲斐もあって、多忙を極めた夏も何とか乗り切ることができました。

源流の元気なまち「本山町」にぜひドライブがてらお立ち寄りください。

山下 文一さん

高知県本山町瓜生野在住。
汗見川活性化推進委員長、
本山町林業研究会会長など、
地域振興に取り組んでいる。

ふる-ぶ 3姉弟妹の Information

第1回

報告

吉野川現地(フィールド)講座「干潟観察会」

吉野川河口部の干潟はいろいろな生物が利用しており、その中にはたくさんのカニたちがいます。そこで、干潟のカニたちを観察すると共に吉野川に関する現状を知ってもらいながら、豊かな自然にも親しんでいただきたく、平成20年10月11日にフィールド講座として「干潟観察会」を開催しました。開催にあたっては、河川・

溪流環境アドバイザーの森本先生、酒井先生、とくしま自然観察の会の井口さんに指導員として御協力頂きました。

当日は、森本先生から吉野川の植物について、また酒井先生からは吉野川のカニ類についてお話ししていただいた後、干潟に生息するカニなどの観察を行いました。

参加者の皆様には、熱心に観察していただきました。なお、今回の観察会ではシオマネキやハサミシャコエビなどの十脚目を10種確認しました。

また、日本野鳥の会の笠井さんより渡り鳥のご説明もいただきました。

今後も、このような機会を通して、吉野川の自然に親しんでいただくとともに、吉野川に関する環境についても関心を深めていただけたらと思います。参加者の皆さん、ありがとうございました。



課題の解決に向け、様々な取り組みを行っています。

災害を未然に防ぐために、 徳島北部災害情報協議会

本協議会は、平成18年に南海地震や台風災害などに備えて行政機関（国土交通省、気象台、県警本部、徳島県、県北西部の19市町村等）が連携を密にし、情報の共有化や災害発生時の支援協力体制を強化することを目的に設立されたものです。（平成18年10月24日設立）

11月17日（月）に、平成20年度 第2回徳島北部災害情報協議会（幹事会）が開催されました。今回の協議会では、吉野川流域における浸水被害軽減に向けた対策や吉野川流域における渇水対策などが話し合われました。



河川・溪流環境を保全していくために、 河川・溪流環境アドバイザー連絡会議

河川・溪流環境アドバイザーは、河川事業等に関して助言等を行い、河川・溪流環境の保全・創出を図るため、河川工学、生物調査、河川・溪流の環境保全に関して専門的な知識を有する方で構成されています。

10月24日（金）に、平成20年度河川・溪流環境アドバイザー連絡会議がアドバイザー10名出席のもと開催されました。今回の会議では、平成19年度河川水辺の国勢調査結果、流域一斉水質調査結果等の報告や平成20年度の工事の施工に対してさまざまなご意見等をいただきました。



水質保全に取り組む 吉野川水系水質汚濁防止連絡協議会

当協議会は、吉野川水系の河川及び公共の用に供されている水路について水質を調査し、その実態を把握すると共に、汚濁防止対策の樹立及び緊急時の連絡体制等について各関係機関相互の情報連絡及び調整を図ることを目的としています。

10月21日（火）に、吉野川下流域の関係機関が集まり、当協議会の下流部会が開催されました。当日は、①水質事故発生時等の連絡体制の周知徹底②水質事故に備えた取り組み③水質事故に備えた資材保有状況等の体制の確認④水質改善等の取り組み状況報告などが話し合われました。



不適切な肥料施用の防止等を目的として 肥料施用に関する合同パトロール

吉野川でも一部河川敷を利用して農業が営まれています。河川環境を良好に維持するために徳島県と協力し、耕作地の肥料等の使用状況のパトロールを行います。

11月7日（金）に、吉野川河川敷にある耕作地の肥料等の使用状況が適切かどうか、徳島県と合同でパトロールを行いました。結果、特に法令に違反するような状況はありませんでしたが、発見された肥料等については速やかに鋤込むよう是正指導を行いました。



よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>

ふる～ぶ編集後記



あつという間の12月となりました。今年も、イベントや取材で大変お世話になったみなさん、いろいろとありがとうございました。また、来年も取材に走りまわりますのでどうぞよろしくお願いします。（か）



四国三郎の郷でのバームクーヘン作り。竹を使ってできるんですね。美味しかったですよ。さて、今年もみなさんいろいろとありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。（や）



お手玉プレゼント

ふる～ぶめいとリーダー上田佳穂さんからいただいたお手玉を抽選で1名様にプレゼントします。（2個）ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は12月25日（木）です。それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。